

efit+ for TCU Ver.1.3.8.0 アップデート概要

2013年12月
株式会社 ニコン・トリンプル

本書では、efit+ for TCU Ver.1.3.8.0 で追加、変更された機能の概要を説明します。

■ ソフトウェア構成表

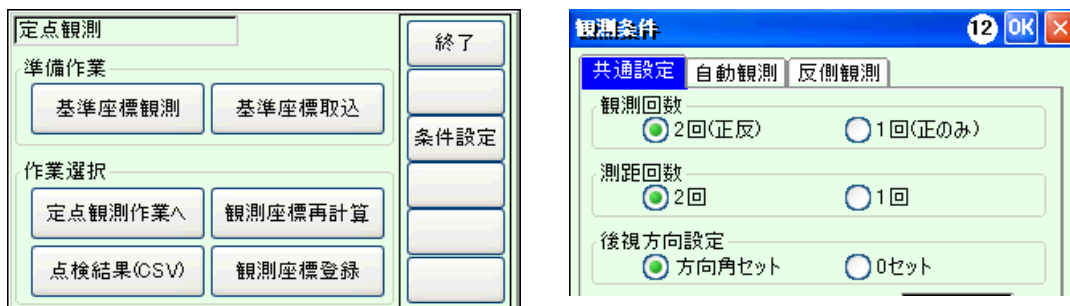
◆efit+ for TCU Ver.1.3.8.0 の製品構成は下記の通りです。

製品名	コード	備考	改良
efit+T 測量基本ソフト	B-E1-T00	基本キットに含まれます	ビデオ画面のレチク位置補正
efit+T 測量観測	B-E1-T50	基本キットに含まれます	
efit+T 測量計算	B-E1-T51		
efit+T 線形計算	B-E1-T52		
efit+T 縦横断観測	B-E1-T53		
efit+T 平板観測	B-E1-T54		
efit+T GPS観測	B-E1-T55		
efit+T オートフォーカスOP	B-E1-T56		
efit+T 地籍観測	B-E1-T57		
efit+T Nikon通信OP	B-E1-T58		
efit+T 定点観測	B-E1-T59	新パッケージ	

■ 定点観測を追加しました

定点観測オプション

◆構造物や地形の変位量観測に特化したソフトウェアを追加しました。



■ 定点観測プログラムで「基準座標の観測」「基準座標の取込」「点検観測(定点観測)」の作業がすべて行えますので、観測作業に他のプログラムを併用する必要はありません。

■ 観測対回数や測距回数の設定も簡単に行えます。



■ 観測は、「全自動」、「半自動」を自由に設定できますので、ミラーが複数設置してある場所や反射物が多く存在する場所では、半自動での観測が行えます。

■ 点検結果はいつでも確認ができ、結果は CSV ファイルに出力が行えます。

■ 観測座標は、「標準」「APA」「SIMA」フォーマットでデータ交換できます。

■ 観測生データは、「標準」「APA」フォーマットでデータ交換できます。

■ 何らかの事故でデータを消してしまってもデータを簡単に復旧することができます。

(※直近 2000 点までのデータを復旧できますが、点数には器械点などの管理情報も含まれます)

◆ビデオ画面で実際の視準位置にレチクルが表示できるようになりました。



■Trimble VISION のカメラは視準望遠鏡下に装着されているため実際に視準位置とレチクルの表示位置が異なりましたが、本バージョンより、測距を行うことによりレチクル表示位置と視準位置が一致するようになりました。

※必ず事前に測距は必要です。測距しない場合は視準位置とレチクル表示位置は異なります。

※レチクル位置補正は、最終の測距値で行います。

以上